

クイズ大会で過去の災害と 今後の備えについて学びました！

(熊本県熊本市にて実施したカフェ)
開催詳細：P53 参照

大きな災害を幾度も経験している熊本では、過去に熊本で起きた災害をテーマに、クイズ大会を行いました。地元の歴史をしっかりと知り、災害や今後の備えについて楽しく学ぶことができました。



熊本でのぼうさいカフェは、2部構成で行いました。

第 部 ぼうさいクイズ「まるごと くまもと」

熊本で過去に起きた津波、水害、地震、等の災害について、3択のクイズ大会を行いました。災害に深く関係する問題から、一見すると防災に関係ないけれど実は防災につながっている問題まで10問用意しました。クイズの解答発表では、それぞれの専門家から分かり易い解説を頂きました。また、実際に災害を体験した地元の方から体験談を聞く時間も設け、災害をより身近に感じて貰いました。



第 部 ギモンにおこたえ「ぼうさい しゃべり場」

参加者から、クイズ中に疑問に思ったことや、平時から心配に思っていることを専門家に質問して頂きました。疑問点を解決し、行動につながるよう、また災害への備えや伝承の重要性についても気付いて頂けるように工夫しました。



全体を通して

部では「クイズの得点」を、部では「質問採用の得点」をつけ、これを合計し、それぞれの得点としました。高得点者には防災グッズ等のプレゼントを用意し、帰宅後、すぐに防災行動へつながるよう配慮しました。得点獲得やプレゼントにより会が盛り上がるよう演出しました。



その他の企画

子どもから大人まで、防災に興味を持ってもらうため、遊びながら防災に触れる場を演出しました。

- ・地震くらやみ体験
- ・防災ガラス体験
- ・ぼうさいカルタ
- ・紙ぶるる君工作
- ・すごろく
- ・パネル展示



【クイズ作成のポイント】

全10問のクイズは、下記のようなポイントに注意しながら作成しました。

- ・ 地元で収集した災害に関する情報を元に、解説役をやって下さる方に相談しながらクイズの作り込みを行った。
- ・ クイズが難しいと参加者のやる気も無くなってくるため、楽しく笑いながら参加できる程度の問題とした。難易度は、全員が7～8割正解できる程度とした。
- ・ クイズを作る際に気をつけたポイント。
 1. 否定形は使わない
(・・・でないのはどれでしょう、など)
 2. 選択肢は長くしない
 3. 短く分かり易く
- ・ クイズは、3択問題とした。3択は、番号で表現するのではなく、地元になんだ色「みかんのオレンジ」「有明海の青」「山の緑」を使い、親しみやすいようにした。

三択は河内町になんだ3色で

| | |
|-------|--------|
| オレンジ色 | 河内のみかん |
| 緑色 | 金峰山の木々 |
| 水色 | 有明海 |



【クイズ例題】



加藤清正は、熊本の町を水害から守るために、加勢川に長い堰をつくりました。

その堰の名前は次のうちどれでしょう？

(オレンジ色) 信玄堤 (緑色) 清正堤 (水色) 加藤堤

[解説役] 国土交通省熊本河川国道事務所

【開催のポイント】

専門家(解説役)を身近に感じて貰うため、ひな壇ではなく参加者と同じお座敷で参加して頂きました。また司会を、地元の方で話しをされるユニークなタレントの方をお願いしたため、参加者に馴染みやすく楽しく会を進めて頂くことができました。

「熊本らしいカフェ」を演出するため、特産品をクイズの景品やお土産として使用することを考えました。農業協同組合、漁業協同組合に相談したところ、快く無償提供して頂くことができ、参加者に大変喜んで頂くことができました。

また今回の企画は、熊本に詳しい人とそうでない人が二人一組で企画することとしました。これにより、地元に着したクイズを考えつつ、客観的な指摘も出来たのでバランスの良い企画となりました。

【やってみませんか】

過去の災害情報は、

「図書館、気象台、市町村役場、国交省の各事務所、地元新聞社、地元テレビ局」等で調べることができます。

地域に根ざした情報に詳しいのは

「昔から地域に暮らしている方、郷土文化を研究している方、小中学校・高校の社会・理科の先生」等です。博物館や教育委員会で聞いてみると紹介して貰えるかもしれません。

題材を1つに絞らず、複数の題材を扱うのも面白いやり方です。その場合、各題材に詳しい専門家をお願いして、解説や協力を頂きましょう。